

第3回守谷駅東側周辺の子育て・教育環境等

を検討するための有識者会議 議事録

日 時	令和7年3月24日(月)10:00~11:50
場 所	守谷市役所 3階 庁議室
委員参加者	樋口委員、藤川委員、宇佐見委員、村上(ま)委員 (計4名)
事務局	市長公室 石神次長兼財政課長、染谷企画課長 こども未来部 石塚部長、森山次長兼のびのび子育て課長、笠見子育て支援センター長、前川すくすく保育課長 都市整備部 浅野部長 教育委員会 小林部長、古橋参事、福島次長兼生涯学習課長、前川学校教育課長、坂本同課長補佐 (計12名)
傍聴者	2名
配布資料	・学校教育環境について ・駅東側への分校開設について

1 開会

2 議長挨拶

3 委員紹介

4 説明

(1) ブランチ守谷について

【事務局】

事務局より施設契約形態と運営状況を説明

【質疑・意見交換】

【村上(ま)委員】

黒内小学校では近隣の土塔森林公園を児童が運動する場として利用していると伺っていますが、ブランチパーク守谷を同様に利用することは可能ですか。

【事務局】

ブランチパーク守谷は地域団体等がイベント等を開催するために設けた施設のため、特定の児童が利用する施設にすることは、不可能ではないですが直ちには難しいと言えます。

【宇佐見委員】

ブランチ守谷は、大和リース株式会社が運営している商業施設とのことですが、子育て施設として借用できる可能性はあるのでしょうか。

【事務局】

商業施設であるため、いつ借用できるテナントができるか不明であること、借用には賃料が発生するという問題がありますが、条件面で合意できれば子育て施設として借用することは可能です。ただし、タイミングや条件の問題で借用できるかどうか不明確であるため、子育て施設の候補地として検討することは難しいと考えます。

【樋口委員】

ブランチ守谷またはブランチパーク守谷に、子育て施設を新設することは可能でしょうか。

【事務局】

ブランチ守谷については、運営事業者の判断によりますが、新たな施設を増築するのはスペースの問題で難しいと思われます。

ブランチパーク守谷は公共施設であるため、イベント等を開催するための機能と調整する必要がありますが、施設を建設すること自体は可能です。

(2) 第1回・第2回会議における協議内容について

【事務局】

事務局より配布資料に基づき説明

【質疑・意見交換】

1 学校教育環境について

【宇佐見委員】

守谷駅東側から守谷中学校への通学を考えると、交番から長龍寺や中央公民館に向かう道路（西口大柏線）が狭く危険であるため、安全対策が必要だと考えていますが、整備計画はあるのでしょうか。

【事務局】

西口大柏線については、都市計画決定を受け、現在測量を行っております。今後、拡幅に向けて用地買収等に進む予定となっております。

【村上(ま)委員】

令和6・7年度から通学区域が一部変更となる地域は、いつ頃から検討して地域に説明しているのかと、現在その他の通学区域で変更を検討している地域があるかを教えていただきたい。

また、通学区域の変更により、過大規模校の問題を解消する可能性については、どのように考えていますか。

【事務局】

令和6・7年度から通学区域が変更となるのは、大原地区と中央4丁目の共同住宅、中央2丁目の共同住宅、さつき台の4地区となりますが、当該地区については、令和5年度に通学区域審議会で審議を行い、地区説明会や戸別訪問などにより周知を行いました。

令和6・7年度から順次変更していますが、兄弟やご近所の児童と同じ学校に通いたいという意向を配慮し、移行期間として3年間は通学する学校を選択できるようにしています。

その他の地区につきましては、令和7年度中に通学区域審議会の当該地域の住民を含めた部会を立ち上げ、黒内小学校の通学区域の見直しを協議する予定となっておりますが、具体的なことは決まっておりません。原本町地区については、現時点では新守谷駅の開発が進んでいないことから、開発が進んで道路が整備され、通学路の安全が見えてきた時点で、再協議することを自治会長と確認しているところです。

通学区域の変更により過大規模校の問題を解決するためには、児童が多い地域を変更しないとなりませんが、そのような地域は限られており、大きく動かすことは直ちには難しいと考えています。

【樋口委員】

守谷小学校の校舎を増築した上で通学区域の変更を行い、守谷小学校に通う児童を増やすことはできないのでしょうか。

【事務局】

守谷小学校の既存校舎は木造校舎のため、同様に木造校舎にすると2階建てしか作れないため、十分な教室を造るのは難しいと考えます。既存校舎との調和の問題がありますが、鉄筋造として3階または4階建にすれば可能だと思います。

【藤川委員】

千葉市では、千葉駅周辺のマンション建設が急増したため、新しいマンションの通学区域を、徒歩30分程度は必要となる飛び地の学区に指定し、通学路に通学支援員をつける等して安全を確保している事例があると聞いています。当該地域からは反発もあるようですが、入居前に決定している事項ということで説明しているのではないかと思います。通学区域の変更の際には、どのように住民の理解を得るかが重要なポイントになると思います。きょうだいなどへの配慮も行いながら、通学区域の変更は行うべきだと思います。

また、黒内小学校及び守谷中学校とは状況が異なると思いますが、千葉市では中学校の敷地に小学校6年生が使用する分教室を増築した事例もあります。

2 子育て施設について

【村上(ま)委員】

児童クラブ・地域子育て支援センター・児童館の3施設は、どれも守谷駅東側にあると喜ばれる施設だと思います。また、市外の私立小中学校に通われている方も多いと思うので、図書館などの勉強できる場所が守谷駅周辺にあると非常に有用だと思います。

【宇佐見委員】

私も、守谷駅を利用する保護者はかなり多いと思いますので、駅周辺に放課後子ども教室や児童クラブを併設した施設を造ることの重要性は高いと考えます。可能であれば、児童センターなどを含めた複合的な施設を造ることができれば望ましいと思います。

また、施設を建設するために用地を取得するとなると、大きな時間と費用を要するため、大日堂地区の市有地を候補地として検討する必要があるのではないかと考えます。

6 意見交換

各委員が、これまでの会議の内容を総括して現時点での考えを発表

1 学校教育環境について

【樋口委員】

教育環境を考えるにおいては、黒内小学校の児童数や松並青葉地区の人口の推計の精度が重要だと考えています。

つくば市でも、3地区で新設校を建設していますが、児童数や人口は推計のとおりになっていないので、推計というのは本当に難しいと実感しています。行政が特別な開発規制でもかけない限り、考えられる最大の児童数を想定して、推計より増加した場合にも対応できるようにすることが重要だと思います。

また、国道294号の通学路の問題は、児童の安全確保という観点から非常に深刻な問題だと感じています。

国道294号の西側は、通学区域を変更することで、黒内小学校の規模をできるだけ小さくしていくことができると思います。また、国道294号の東側は、守谷小学校を増築することが可能であれば、西側と同様に通学区域の変更で対応することもできるのではないかと考えます。

先ほどの千葉市の事例のように、守谷中学校に黒内小学校の特定学年を動かすことも検討すべきだと思います。

新設校については、建設するまでの時間的な問題と将来的に児童数が減る可能性が高いことを踏まえて考える必要があると思いますが、例えば、守谷駅東側に義務教育学校を新設すれば、1学年2学級でも18学級となるので、黒内小学校の過大規模と通学路の問題を解決する一つの選択肢になると考えます。

なお、児童数が増えている地域と減っている地域があるため、新しい学校を造ることと、統合などして学校数を減らしていくことは、両方を一緒に考えて行かないといけない問題だと考えています。

最後に、やはり住民の意見というのは大きな影響力があるので、決定前に住民の意見を広く聞いて方針を定めていくのが良いと考えます。

【藤川委員】

樋口委員の意見がしっかり整理してくださっており、私の意見も大きな違いはありません。

私の意見のポイントだけ申しますと、教育環境の当面の課題の対応のためには、新しいものを造っている時間はないので、短期的にできることを全部やって乗り切るしかないと思います。

具体的には、特定地域選択制度で黒内小学校以外の学校を選択してもらいやすくすることや、通学区域を柔軟に変更するなどに対応していくことになると思います。守谷市は、各小学校の間隔がそれほど離れていないため、通学区域の変更を柔軟に考えても、住民の理解を得られるのではないかと思います。

守谷中学校の校舎に、黒内小学校の6年生の分教室を期間限定で設置することも、可能性があれば検討すべきだと思います。

また、長期的に考えた場合には、黒内小学校は大規模が続いていく見込みであり、推計より児童数が増えた場合のことを考えると、新設校を設置する選択肢もあっていいと思います。当面の黒内小学校の対策にはなりませんので、分けて考えるべきですが、今後の駅周辺の開発状況などを見据えて、義務教育学校のほか、学びの多様化を踏まえて複合施設的な学校を造るということも選択肢とすべきだと思います。

【宇佐見委員】

現在の黒内小学校の登下校時の混雑と学習環境というのは、常識的な範囲を超えているのではないかというのが正直な考えです。

新設校や分校を建設することが一番の解決策ではありますが、開校時期は早くても令和13年度になるということで、今抱えている問題の早急な解決策にはならないということは承知しています。しかしながら、黒内小学校が適正規模校となるのは令和17年度以降との見込みですので、令和13年度開校でも、一定の効果はあると思います。

ただ、新設校については、将来的に児童数が低下する可能性があることなどを踏まえると、難しい問題を抱える可能性があると思います。

分校については、将来を見据えて複合施設とした場合のセキュリティの問題や時間とコスト、分校としての必要がなくなった際に施設をどう活用するかなどを予め検討し、施設の内容・規模等を決定する必要がありますが、考えるべき有効な選択肢の1つであると思います。

【村上(ま)委員】

これまでの各委員のお話は、私も全て賛同いたします。

黒内小学校の新設校の分校の建設には相当の時間がかかり、喫緊の課題である過大規模校の解消には難しい面があることは理解しました。

私からは、黒内小学校の過大規模校の問題を少しでも解消させるための対策として、3つ挙げさせていただきます。

まず1点目として、特定地域選択制度についてです。松並青葉地区のスクールバスの利用者を向上させるために、来年度から、実際の利用者にスクールバスを選択したメリットを地域に紹介してもらえるといいのではないかと思います。

2点目としては、通学区域の変更についてです。住民の理解が必要なためハードルが高いかもしれませんが、松ヶ丘小学校に近い地域に子どもの多い地区があると思いますので、黒内小学校の児童数があまりにも多いという現状を理解していただいて、少しでも分散して他の小学校の通学区

域とすることが必要だと思います。

3点目として、私立小学校に流入を促すための助成についてです。東京都新宿区等複数自治体では、私立の小中学校に通学している世帯に、給食費分相当の助成を実施している事例があるので、守谷市でもそのような先進的な取組を検討すべきではないかと思います。

2 子育て施設について

【樋口委員】

子育て施設については、教育環境の問題とは異なり、市全体として広く考えることが重要だと思いますが、黒内小学校児童クラブが近い将来に教室数が不足することが懸念事項だと思います。

その問題を解決するためには、児童クラブを含めた子育て施設を、駅や市役所の周辺など1か所に集中的に集めることも1つの考えだと思います。また、守谷駅東側に子育て施設が少ないので、子育ての環境を整備することは考えるべきだと思います。

子育て環境を整備することで子どもの数が増え、将来的に学校環境の悪化を招く可能性も有りますが、若い世代が増えることは、まちづくりの活力という観点では良いことだと思います。

【藤川委員】

児童クラブについては、待機児童ゼロを目指すことが基本だと思いますので、教室が足りないのであれば、何とか増やしていく努力が必要だと思います。児童クラブは、あればいいではなく、子育て環境の基本インフラと位置付けて整備していく必要があると考えます。

児童クラブが整備された上で、児童館や子育て支援センターなどの大きな施設の充実を図る方向で検討すべきと考えます。自治体として、子育てしやすい環境、社会を作っていくことは必要と考えます。中長期的な計画を作り、ある程度大規模な施設を作り、子育てしやすいまちにすることが重要であると思います。

【宇佐見委員】

子育て施設については、守谷駅周辺に複合的なものを造っていただきたいと思います。しかしながら、新しい施設が完成するまでの間は、時間的制約の中で児童クラブの問題にどのように対応していくのか考えなければなりません。民間施設の活用など、待機児童が生じないための取組が必要だと思います。

私も、子育て世代が増えることがまちの大きな活力になっていくと思いますので、守谷市のニューノーマルな学校教育の延長線上で子育てや教育の街といわれるようになることで、将来的に児童数も横ばいまたは増加となる可能性が十分にあると考えます。

どのような子育て施設をつくるのかについては、小中高生を対象にワークショップを開催するなど、利用対象となる子どもたちの意見や考えを聞いて進めて欲しいと思います。

さらに、子育て施設が完成された際には、中学生や高校生が施設の企画や運営に携われるようになるのが理想だと思います。

【村上(ま)委員】

守谷駅周辺に住む子育て世代としては、守谷駅周辺に送迎ステーションや児童クラブがあると、子どもの送迎にかかる時間が短縮でき、助かる方が非常に多いと感じています。

また、本会議の説明を伺って、児童館が18歳まで利用でき、友達とのコミュニケーションや心のケアサポートなど、中学生や高校生の居場所となっていることが分かりました。子どもが安心して過ごすことができる場所が身近にあることは、住まいを決めるための重要な要素であるため、18歳まで利用できる児童館があることを積極的に市街に発信していただきたいと思います。

【質疑・意見交換】

【村上(ま)委員】

特定地域選択制度に関する事で、黒内小学校・郷州小学校・御所ヶ丘小学校では、学校ごとに特色や違いがあるのでしょうか。

【事務局】

基本的には、市内の学校はどこに通学しても同じ教育が受けられることを前提で進めています。1人1台の端末配布や電子黒板の配置など、全ての学校が同じように質の高い教育を受けることができることを守谷市の特徴としています。

ですが、これからは、特定地域選択制度のことも踏まえて、もう少し地域の特色を生かして、学校ごとの特性を出せるような取組に入っていく段階にあると考えているところです。

例えばですけれども、令和6年度は郷州小学校ではプログラミング、御所ヶ丘小学校では英語教育に注力いただくなどしており、今後は、自然環境を生かした行事など学校ごとに特色を持たせることが考えられます。

【宇佐見委員】

大野小学校で田植えから稲刈りまで行って、みんなで収穫したご飯を食べるなど、特色のある取組事例は既にあると思うので、特色ある学校づくりは広げていっていただきたいと考えます。

また、不登校児童が増えていることの対応として、子ども食堂のような居場所を増やすことを積極的に考えていただきたいと思います。

【樋口委員】

不登校児童や多少の過大規模校の解消に繋がる可能性があると考えられるため質問しますが、通学区域外から小規模校に通学することを認める小規模特認校を検討したことはあるのでしょうか。

【事務局】

現時点で小規模校となっている学校がないため、今後の対応策としての選択肢の一つと認識していますが、具体的には検討していません。

7 連絡事項

4月7日(月)までに、各委員の意見書を提出していただくことを依頼

8 閉会
